

第3期宮前区区民会議 第5回 地参知笑部会 摘録

日 時 平成23年4月15日（金）15：00～17：00

場 所 宮前区役所 第2会議室

参加者 委 員 山下委員長、恒川副委員長、持田部会長、久保委員、河井委員、
平井委員、高橋委員、種村委員、吉田委員、
直本副委員長（オブザーバー）

事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
阿部コンサルタント

1 前回の振り返り

持田 修正等は特にないようであるが気づいたことがあれば事務局に知らせてほしい。

2 冊子による情報発信と仕掛けづくりについて

区 地域振興課で「宮前区ガイドブック」の改定を行っている。これと重複しないようにする必要がある。地域の人たちが参加するきっかけづくりとなるものとする。

区 イメージの参考として多摩区が発行した「ぐるぐるたまぐさ」がある。専修大学の女子学生が取材しているところが特徴となっている。15～20 ページの小冊子であれば印刷費は大きくならないので、試しに3年間程度、転入者に配布することもできる。

久保 区民会議フォーラムでいろいろな人の意見を聞けると思っていたが中止になった。これに変わるものは何か考えているのか。

区 3月に企画していたフォーラムの形式は考えていない。7月の全体会議では座間市方をお話の伺うことになるかもしれない。

持田 区民の方が見てもらいやすいものということで在住の芸能人に表紙に出てもらおうということも考えられる。ぜひ、アイデア出しをお願いしたい。

高橋 （資料説明）

平井 観光協会でも同じようなものがある。宮前区ガイドブックもあるなかで区民会議としてどういうものをつくるか。

持田 震災の中でコミュニティが大事なことが改めてわかった。顔見知りになることが大事。それをもとに楽しく作れものものをつくりたい。まず、目次をどうするか。

平井 いろいろなところがつくっているものを区民会議なら一つにできると思う。情報を一つにすることが区民会議の意義ではないか。

高橋 宮前区ガイドブックがいろいろな情報を統合している。区民会議がつくるなら宮前区ガイドブックではないかと思っている。

吉田 高齢者の団体を紹介したり、子育ての団体を紹介するなど、年齢層を切り口にしてはどうか。子どもが親を呼び寄せているケースがあり、高齢者の団体に入りたいという話を聞いている。その時に参考になるような冊子があるとよい。

平井 宮前区ガイドブックは誰がつくるのか。

区 公募区民の参加のもと作ることにしている。

高橋 川崎市のガイドブックに老人クラブの連絡先は掲載されていると思う。

吉田 何をやっているか、写真を載せて顔の見える形で紹介してほしい。

第3期宮前区区民会議 第5回 地参知笑部会 摘録

平井 ガイドブックの作成に区民会議が参加することはできないのか。

区 副委員長は坂道部会の佐藤委員であるし、他にも1名委員となっている。区民会議を踏まえて、ガイドブックに対して意見を出してもらうこともできる。

久保 ここで話しあった後のことを考えると、作る段階で市民を公募すると同じような議論になるし、業者に任せるとなるとどこまで詰めるかがある。宮前ぼ一たろうやミクシーに情報を出した時に、方法を誰かが教えてくれればいいと思った。宮前区ガイドブックの改訂版を出すのであれば、それを使ってどうコミュニティに活かしていくのかを検討した方がいいのではないかな。ウエルカムセットを見てみたが自分がほしい情報がどこにあるかわかりづらい。

恒川 ガイドブックはいいと思うが動的ではない。いついけばお祭りがあるかなど生きた表現がほしい。体験談をちりばめて。

吉田 高齢者は携帯電話も使えない。文字や写真になったものがあると助かる。

種村 高齢者向けは字を大きくし若者向けは字を小さくするなど親切心があるとよい。

平井 役所でいろいろ出しているのなら一つにしてほしい。

山下 宮前区に始めた来た人を対象にしようとしている。関心がない人にもわかってもらうようなもの。ガイドブックのガイドブックをつくってもいいと思う。

持田 コミュニティへの参加という目的からみて今できているものがどうなのか。もし出来ているのなら始めから話をしないといけない。

直本 これまで作られたガイドブック等でどの程度網羅されているのかを把握して、これからつくる冊子のことを検討する必要がある。また、転入家庭に配布されているのは宮前区ガイドブックだけであり、他は興味のある人の手にしか渡っていない。今回の冊子は転入家庭に配るということを前提にして議論していくべきではないか。

高橋 アンケートをやっているので何を求めているかを踏まえて作る必要がある。また、インターネットの活用も考えていくべき。宮前ぼ一たろうを機能させていくべき。

平井 情報が多すぎる。情報を集約して提供することは区民会議だからできると思う。回覧板の情報を銀行や駅などに置くなど工夫すべきではないか。

恒川 冊子が入手するようにすべき。東急の冊子は手に取っていて利用されている。

久保 自分たちの世代でも親を呼び寄せるという話を聞くが宮前区では孤立して寂しいかも知れない。自分たちも町内会に入ってなくて地域のつながりが少ないことも多い。例えばターゲット別に1枚もので人や施設、グルメなどを紹介する。

河井 転入者にワンセット渡す時にクチコミ的にガイドブックのアドバイスができるとよい。また、情報が新しい必要がある。宮前区のホームページを見たときにフォーラムのことが載っていなかった。宮前ぼ一たろうに掲載したら反応が少なかった。

種村 定年退職した人にどのように情報を届かせるか。薄いもので数をたくさんつくるといいのではないかな。

恒川 行政がいろいろなものをつくっている。どれだけのものをつくっているか。

平井 区役所内でもコミュニケーションを取って「これはやめよう」ということを話してはどうか。

久保 宮前区ガイドブックもターゲットを絞ってつくることは可能ではないか。

高橋 ガイドブックの方向性はまだわからない。

第3期宮前区区民会議 第5回 地参知笑部会 摘録

持田 集約と言う意味はどういう意味か？一つにまとめるということか？

平井 そうです。区民会議が間に入って情報を一つにする。2枚のものを1枚にする。

高橋 宮前区の広報部が企画課だとすると、企画課に情報が集まっていて調整して発信するというようになるべき。

区 個別にやっていることの広報紙は深い内容になっているのですぐにまとめることは難しい。これまでの議論では、情報を集約しつつ参加につなげるということが出ていた。転入者や川崎都民などを対象に、例えば子育て世代であれば、見開き1ページで概要や体験談を掲載して「詳しくは専門的な広報紙“とことこ”を見てください」と紹介するような形が考えられる。ターゲットを明確にしぼる。また、コンテンツができれば宮前ぽ一たろうに掲載できるし、ロコミ情報も追加できる。

持田 今の話で概略の方向性は見えたと思う。

久保 子育て関連のマップをつくったことがあるが、その時に公平性に配慮すると全部の情報を載せないといけなかった。今回も全部を載せないといけないのか。

平井 私たちは積極的でない人に見てもらいたい。

久保 お店の情報と一緒に載せておいて興味があれば子育て団体のことも見るという感じではないか。

高橋 他のガイドブックの紹介だけでもいいのではないか。

区 結果として紹介になるかもしれないが読み物としても面白い冊子というイメージ。

吉田 ターゲットを絞るというのはいいと思う。

平井 我々は作るのではないとするとどこまでやるのか。

区 やれることまではこの部会でやる。

恒川 目次をつくってはどうか。

山下 目次が決まってくると形が見えてくる。3割は町内会・自治会に入っていない。それらの人に入ってもらうことも冊子のねらいの一つ。

持田 先程、事務局から出してもらった方向でいきたいと思う。またつくる方向でいいのか。

恒川 次回、こういう内容を入れてほしいと言うのを出したったらどうか。

持田 他とバッティングするものをつくってはいけないと思う。

高橋 コミュニティづくりにつながる仕掛けをつくっていく必要がある。

持田 地産地消のものの料理教室や宮前区の歌というアイデアもあった。これらも入れていけるかもしれない。

恒川 ご近所ガイドというイメージ。

高橋 組織づくりや仕組みづくりと一緒に考えていくべきだと思う。その中で宮前ぽ一たろうをどう活用するかも考えていくべきだと思う。

持田 次回は目次について検討する。

3 その他

区 今日の議論を図的にまとめるので、それを見ながら目次のアイデアを出してほしい。次回の部会は5月16～20日の間にやりたい。夜の時間帯で調整する。